



古典（古文）教材史の基礎的研究：出典調査（1）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内藤, 一志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00003735

古典（古文）教材史の基礎的研究

—— 出典調査（1） ——

内 藤 一 志

1. 調査のねらい

戦前・戦後を問わず、検定下で用いられた中等教育段階における読本または国語教科書の教材は、教師用書が存在する場合、その出典について詳細に記していることがほとんどである。しかし国定期、すなわち、戦争末期に用いられた『中等国文一～五』・『国文六』（男子用、女子用別）、終戦直後に暫定的に用いられた『中等国語一～三』・『国語四』（男子用、女子用別）、そして、新学制下で使用された最初の教科書（但し、後の検定下においても使用された）『中等国語一～三』・『高等国語一～三』、これらの教科書は教師用書が存在せず、その出典把握が容易ではない。本作業はこの時期の古典教材の出典を明らかにし古典教材史の考察に便宜を図ろうとするものである。

本調査は、出典を作品レベルではなく、取り上げた箇所あるいは歌といった、もう一段階細かいレベルで行うことを特色とする。教科書中の古典教材は複数の古典作品を抄出する形が採られている。補助教材を用いるなど、実際の授業では多様な形が想定されるが、基本的に古典の学習は作品全体ではなく、作品のある一部分を扱うことで作品を読んだ事になっているのである。教材として採用された部分はその作品の特質をよく反映したところであっても、部分であることに変わりはない。本調査がとった方法は、古典教材についての史的検討においては、作品についてもさる事ながら、その採用部分についても意が払われるべきであるとの考えに基くものである。

2. 先行研究について

本稿で扱う教科書を対象にした研究としては、以下のものをあげることができる。

- ①拙稿「戦後古典教育の展開」『人文科教育研究 XI』1984. 9
- ②吉田裕久「暫定国語教科書（昭21）の研究」『愛媛大学教育学部紀要 32』1986. 2
- ③吉田裕久「戦後国語教科書発達史研究一文部省著作『中等国語』（昭22）について」全国大学国語教育学会 76 回大会発表資料 1989. 8
- ④田坂文穂編『旧制中等教育国語科教科書内容索引』（教科書研究センター・1984. 2）

本稿との関係で、特に留意すべきものは②と④と考える。②は暫定教科書の書誌の研究で、前後の教科書との関係について詳細に報告しており、①における誤りと疑問を補ってくれる。出典についても記しているが、その記述方法は、ばらつきがある。また数カ所において不備が認められる。それはこの文献の本質的なものを揺るがすものではないが、本調査の報告は、必然的にそれを補うことになるであろう。ただし、本稿では紙幅の関係でその点を詳細に述べることができない。教科

書間の教材比較等、本調査に基づいた考察については別稿（『人文科教育研究XVII』掲載予定）に譲るので、併せて参照願いたい。

④は書名の示す通り、旧制中等教育における国語教科書のほとんどを調査した教材索引である。本書の、各方面における有効性は疑いのないところであるが、以下に示す点より、稿者が企図する古典教材史の考察に対しては、有効性に限界がある。第一に、出典が教科書に記載されている段階にとどまっており、その結果、作品・作者・その他不明の三段階があり、全てが明らかになっていくわけではない。第二に、出典の表示が作品毎であり、教材化された部分についてはその表題を示すことにとどめていること。そのため、同一作品内において、教材化された箇所が異なる場合、同一教材でも表題が異なる場合、異なる教材であっても同一表題である場合等が想定できる。第三に、編集方針の「ある課に出典が二つ以上数個に及んだ場合の配列は、その最初に記された出典名の50音順によった」、「短歌・俳句のような韻文教材の場合のように、ある課に作者名が二人以上出るときは、その最も代表的な作者名を記し、複数であることを示すために、「ほか」または「他」の字をそれに添えた」こと。以上三点により、作品単位における出典についておおよその傾向の把握は可能であるが、詳細な形で教材史研究には対応しきれない。

3. 出典一覧

（出典表示の方針）

教材毎の出典を、翻刻されている通行テキストを用いて、箇所の提示をする。出典表示に使用するテキストは原則として岩波書店発行の『日本古典文学大系』による。それは本双書が、現在発行されている古典のテキストとしては、最も流布しかつ所収作品も多いことによる。しかし本双書に所収されていない作品については、適宜、テキストを定め書名を示した。和歌については検索の便宜を図るため、角川書店発行の『新編国歌大観』に収められている作品については、本書により、歌番号によって示した。中には入手、閲覧が困難なテキストを用いているものがある。その点において、本作業は単なる教材採用箇所の存在証明にとどまっているものがある。この点については、今後の課題としたい。

また、出典表示に用いたテキストが採用している底本が、教材とは明らかに異なると考えられるものがあるが、本作業はなるべく入手や検索の容易な古典テキストによって出典箇所の把握を可能にするように心がけており、教材に用いられた底本を厳密に求めることは行っていない。出典表示テキストとは異なる本文の場合、「異文」の表示をするにとどめてある。ただし『枕草子』については、現在多くの注釈書で採用している三巻本を底本とするものは避けた。それは対象としている教科書の『枕草子』教材は明らかに北村季吟の『春曙抄』を用いているからである。岩波文庫版『春曙抄』を用いることも考えられるが、これは既に絶版となっており、基本方針にそぐわない。そこで最も近い能因本を底本とする『日本古典文学全集 枕草子』（小学館）を用いることにした。

（凡例）

- ・教科書名の横に、調査に用いたテキストの発行年月日を示す。これは、『中等国文』では全冊について使用本であることを示す「翻刻発行」の奥付記載がなされているものを調査し得ていないこと、新学制下での『中等国語』『高等国語』では発行時期によって「学習の手引」の有無という点

において異なることをふまえた処理である。但し、現在まで調査した教科書において、古典教材の本文そのものに変更が認められないことから、出典調査の資料としての支障はないものと思われる。

- ・教科書名の下に、古典教材である課を、教科書の既述に則って課数・表題・（ ）で出典あるいは主な作者を示し、*で表示テキストを示す。
- ・同一課内で、複数の教材を有するものは、教科書の表示（題名、数字など）に従って、分けて示す。行を空けての区分は、その順に従い連記する。
- ・出典箇所の表示は、→以下の部分。出典作品の巻数等は算用数字を用いる。
- ・『日本古典文学大系』によって表示する場合は通巻番号のみ。他のテキストの場合は、そのつど書名を示す。『新編国歌大観』による場合は、この箇所の表示はしない。
- ・漢字は原則として新字体を用いた。
- ・表示テキスト本文と教材文が異なる場合、「異文」と記す。
- ・出典箇所を分かりやすく示すために、テキストに小見出し等がある場合はそれを用いる。表示の記載が広範囲を示すために検索に不便を来すと考えられる場合はページ数も適宜示す。省略がある場合、表題等で示される範囲を念頭において、その範囲が広い順に、前部は「前半略」「前略」「冒頭略」、後部は「後半略」「後部略」「末尾略」と示す。途中略については、箇所が複数にわたっていても「中略」と示す。この表示は稿者の任意によるおおまかなもので、ねらいはあくまでも出典箇所の比較と検索の利便性においており、全体の何パーセントといった基準はない。
- ・既述の教科書と同一（表記については除く）の文・歌等で構成されているものについては、最も先行する教科書をひとつ〔 〕で示す。複数示してある場合は、完全に同一のものなどを参考として掲げたものである。課の全てが同一の場合は、課の題名の横に、課内の一部の教材が同一の場合は、その旨を記し、同一部分の横に記す。記載方法は、[国文1-1]は、『中等国文一』の第1課。[国語1前-1]は、暫定教科書『中等国語一』の前編の第1課。[国語4-1]は、『国語四』の第1課。以上のものに[女]の表示があれば、各教科書女子用を示す。

○中等国文1（男） 昭18.12.14

1. 富士の高嶺（万葉集）

→ 320, 321

6. 戦国の武士（常山紀談）* 岩波文庫『常山紀談上巻』異文

・ 人間五十年

→ 巻2（3話）桶はごま合戦今川義元討死の事（末尾略）

・ 嶺の煙

→ 巻4（10話）鳥居強衛門忠節の事

・ 缸破り柴田

→ 巻3（9話）柴田勝家水缸を破て城を守りし事

・ 山吹の花

→ 巻1（13話）太田持資歌道に志す事（注記略）

9. 武士気質（藩翰譜）* 『新井白石全集第1』

・ 弓矢の家

→ 巻8下 相馬（長門守平義胤についての記述部分の内、P 366 上～367 下）

・ うれし泣き

- 巻4 本多（飛驒守藤原成重についての記述部分の内、P 76 上～78 上）
- ・大事の使
 - 巻6 柳生（但馬守菅原宗矩についての記述部分の内、P 251 上～252 下）
- ・日ごとの祈誓
 - 巻5 板倉（伊賀守勝重についての記述部分の内、P 196 上～197 下）
- 10. 親心（雲萍雑誌）＊『日本随筆大成II期4』
 - ・約束の松
 - 巻4（9話）P 319～320
 - ・詩歌の道
 - 巻2（30話）P 286～287
 - ・一人の弟子
 - 巻2（19話）P 276～277
 - ・石臼の目
 - 巻4（8話）P 319
- 11. 朝のこゝろ（橘曙覧）＊『日本古典全書 宗武・橘曙覧集』番号は本書による
 - 67, 679, 451, 40, 79, 105, 44, 168, 169, 172, 173

○中等国文2（男） 昭19.8.30

1. わたつみ（万葉集）
 - 15, 8, 255, 272, 1093, 3252, 1228, 4053, 4352
3. 一門の花（平家物語）＊33 異文
 - ・故郷の花
 - 巻7 忠度都落（末尾略）
 - ・青山の琵琶
 - 巻7 経正都落
4. すゝきの穂（良寛他）
 - ・良寛 ＊『日本古典全書 良寛歌集』番号は本書による
 - 392, 879, 605, 181
 - ・大隈言道 ＊『日本名著全集 江戸文芸部和文和歌集下』所収「大隈言道全集」の「今橋集」
 - ふく風に…→同集P 709
 - かささせる…→同集P 722
 - おのがひれ…→同集P 843
 - ・平賀元義 ＊『校註国歌大系19巻 近代諸家集5』所収「平賀元義集」
 - 吉備津彦…→同集上P 860
 - 鏡山…→同集下P 891
 - 上山は…→同集下P 890
 - えみしらを…→同集上P 869
6. 大君のへに（太平記）＊34
 - ・松の下露
 - 巻3 主上御没落笠置事「天皇、藤房等三人を随え、笠置を逃れさせ給う、御和歌」
 - ・院の荘

- 巻4 備後三郎高德事付呉越軍事「高德の計画ならず、院庄に於て桜樹を削って詩を題し、志しを述ぶ」
- ・船上のみゆき
 - 巻7 先帝船上臨幸事「佐々木清高の追跡、危難を遁れ、名和湊に御着」（中略）、「勅使を名和長年に派遣、長年の決意、主上を奉載して船上山に籠る」
- 8. 土風（駿台雑話）＊岩波文庫『駿台雑話』
 - ・鎧の着そめ
 - 巻3 禮集 阿閉掃部（冒頭、後半略）
 - ・清風高義
 - 巻3 禮集 手折手に吹く春風（冒頭、後半略）
 - ・秘事は暎
 - 巻2 義集 仏になるやう（冒頭、後略） 注）この題目テキストの目録に記載無し、本文中にあり。
- 10. 創始者の苦心（蘭学事始）＊95 異文
 - 上巻末尾から下巻冒頭P 492-497

○中等国文3（男） 昭18.12.31

1. 宇智の大野（万葉集）
 - 3, 4
2. 草薙の大刀（古事記）＊1 異文
 - ・須佐之男命
 - 上巻「天照大神と須佐之男命」の6「須佐之男命の大蛇退治」（後略）
4. 源家のほまれ（平家物語）＊33 異文
 - ・逆櫓
 - 巻11 逆櫓
 - ・継信の最期
 - 巻11 嗣信最期（前略）
 - ・屋島
 - 巻11 那須与一
5. 浮島が原（義経記）＊37 異文
 - 巻3「頼朝謀反により義経奥州より出で給ふ事」～巻4「頼朝義経対面事」
6. 磯もとゞろに（源実朝）
 - 163, 189, 271, 313, 348, 364, 697, 717, 719, 680
7. 大塔宮（太平記）＊34
 - ・柿の衣
 - 巻5 大塔宮熊野落事の内「按察法眼好専、宮を般若寺に攻む、経箱に隠れ、危難を逃れさせらる」、「熊野に向わる、道向文、切目の王子の示現、十津川に御到着」
 - ・緋緘の鎧
 - 巻7 吉野城軍事の内「二階堂道蘊吉野城を攻む」、「城落ちず」、「吉野の執行岩菊丸の謀、城兵の敗北」、「大塔宮、最後の御酒宴、木寺相模の舞、村上義光、宮に代わって討死にす」
8. 文武の道（神皇正統記）＊87

→後醍醐天皇（一部） P 175-176, P 187-192（中略）

○中等国文4（男） 昭19.9.30

1. 鞆の音（万葉集）
→76, 979, 977, 3666, 239, 3947, 273, 1422, 929, 1092
2. 大国主神（古事記）* 1 異文
→上巻「大国主神」の1「稻羽素兔」（末尾略）
3. 人臣の道（神皇正統記）* 87
→後醍醐天皇（一部） P 184-187
4. 菊池一族（太平記）* 34, 36
 - ・父の教訓
→巻11 筑紫合戦事（中略, 末尾略）
 - ・筑後川の戦
→巻33 菊池合戦事の内「武光, 小式瀬尚の軍勢と戦い, 大いにこれを破る」（前略）
5. 月天心（与謝蕪村）* 58 数字は本書の歌番号, 以下同様
→618, 769, 655, 734, 850, 862, 940, 833, 100, 93, 148, 539, 328, 316, 319
9. 松陰と家庭 * 『吉田松陰全集 7, 8巻』大和書房, 数字は書簡番号
 - ・妹千代に与ふ
→7巻, 138, 安政元年12月3日付け書簡3通の内, 第一信
 - ・母瀧より
→8巻, 462, 安政6年正月25日付け書簡
 - ・父・叔・兄に贈る
→8巻, 624, 安政6年10月20日付け書簡（前半略）
10. 高名の木のぼり（徒然草）* 30 数字は本書の段番号, 以下同様
 - ・高名の木のぼり→109
 - ・水車→51
 - ・榎木の僧正→45
 - ・植うること→224
 - ・兵杖の難→146
 - ・馬乗り→185
 - ・二つの矢→92

○中等国文5（男） 昭20.1.24

1. 若菜（古今和歌集）
→18, 135, 165, 970, 42, 59, 304, 360, 270, 327, 344, 1077
2. やまとうた（紀貫之）* 『日本古典文学全集 古今和歌集』（小学館）
 - ・一 →「一和歌の本質と効用」, 「二和歌の起源」（後略）
 - ・二 →「五古今集の編集過程」の内, 前半部
 - ・三 →「五古今集の編集過程」の内, 後半部
3. 春は曙（枕草子）* 『日本古典文学全集 枕草子』 数字は本書の段番号, 以下同様
 - ・一→1, 二→147, 三→116, 四→204, 五→133, 六→208, 七→226, 八→25（中略）

5. 恩賜の御衣 (大鏡) * 21
→第2巻 左大臣時平の内「菅原道真」(後略)
6. 光頼卿参内 (平治物語) * 31 異文
→上巻 光頼卿参内の事並びに許由が事
7. 月の前 (上田秋成) * 『日本古典全書 上田秋成集』
→藤篋冊子 (抄) 「月の前」(末尾の漢文略)
9. 天の香具山 (新古今和歌集)
→2, 35, 26, 267, 201, 1882, 362, 472, 389, 158, 953, 671
10. 敷島の道 (増鏡) * 87
 - ・おどろの下
→第1「おどろのした」の内, 冒頭部 (中略) P 251-254
 - ・新島守
→第2「新島もり」の内, 後部 P 279-280
11. 吉野の奥 (後醍醐天皇他)
→新葉集 (217, 1119), 続後拾遺集 (1141), 新葉集 (384, 1006, 1141, 109, 1032, 1420, 1234, 1235), 李花集 (717), 新葉集 (1107, 1121, 585, 1366)
12. 説話三則 (古今著聞集他)
 - ・大食調入調曲 (古今著聞集) * 84
→巻第6, 255「源義光笙の秘曲を豊原時秋に授くる事」
 - ・不動尊の火焰 (十訓抄) * 岩波文庫『十訓抄』
→第6の35「絵仏師良秀のよぢり不動」(末尾略)
 - ・つはものの道 (宇治拾遺物語) * 27
→巻12の19「宗行ノ郎等射虎事」
13. 鞆猿 (狂言) * 42 異文
→鞆猿 (中略)
15. 先達 (徒然草) * 30
一→52, 二→150, 三→171, 四→188, 五→167, 六→215
16. 奥の細道 (奥の細道) * 46
 - ・門出
→「出発まで」, 「旅立」, 「草加」
 - ・白河
→「白川の関」, 「須賀川」(後略)
 - ・松島
→「松島」
 - ・平泉
→「石の巻」, 「平泉」
 - ・立石寺
→「立石寺」
 - ・最上川
→「最上川」
 - ・象潟

→「象潟」(末尾の5句の内4句略, 汐越や…のみ)

○国文6(男) 昭20.1.30

1. 撃ちてし止まむ(古事記)*1

・神武天皇

→中卷神武天皇の1「東征」(中略)

・倭建命

→中卷景行天皇の4「小碓命の東伐」の後半部(中略), 5「倭建命の薨去」(末尾略)

2. たぎつ河内(万葉集)

→38, 39, 1515, 147, 256, 277, 64, 3252, 319, 929, 930, 979, 977, 378, 1046, 4491, 4053, 4297, 4394, 4427

4. 恩賜の御衣(大鏡)*21[国文5-5]

5. 白良の濱(催馬楽, 梁塵秘抄)

催馬楽 *3 数字は本書の歌番号

・紀伊国

→呂歌 33

・難波の海

→呂歌 56

梁塵秘抄 *73 数字は本書の歌番号, 以下同様

・岩もる水

→巻第2 433

・遊ぶ子供

→巻第2 359

6. 橋合戦(平家物語)*32 異文

→巻第4 橋合戦, 宮御最期(前後部略) p 315-317

7. 早蕨(金塊和歌集)[国文3-6, 189, 313, 680, 697, 717, 719]

→44, 189, 230, 313, 350, 593, 623, 680, 697, 717, 718, 719

9. 法語抄(歎異抄他)

・歎異抄 *82

→歎異抄2, 3

・正法眼蔵随聞記 *81 異文

→3の2(後略), 5の4(前後部略)

10. 鉢の木(謡曲)*41 異文

→鉢木

11. 由利の八郎(吾妻鏡)*『増補新訂国史大系 吾妻鏡第1』(吉川弘文館)

→9巻「文治5年9月7日」

12. 葉隠抄(山本常朝)*『日本思想大系26』(岩波書店)

→(序の一部), 聞書1の1, 聞書2の7(末尾略), 聞書1の117, 聞書1の143, 聞書2の17, 聞書1の14, 聞書2の135, 聞書1の4

14. 奥の細道(奥の細道)*46,

→出発まで, 旅立, 草加(後略), 白川の関, 飯坂, 石の巻, 平泉, 象潟(末尾4句略, 象潟…の

み), 越後路

16. 直毘霊 (本居宣長) * 『本居宣長全集 9 卷』筑摩書房

→古事記伝 1 の巻「直毘霊」(中略)

17. 尊きこの身 (平賀元義ほか)

平賀元義 * 『校註国歌大系 19 卷 近代諸家集 5』「平賀元義集」[国文 2 - 4, 一部]

上山は…→下 P 890 [国文 2 - 4]

は、そはの…→上 P 855

えみしらを…→上 P 869 [国文 2 - 4]

わたつみの…→中 P 874

皆人は…→中 P 878

佐久良東雄 * 『佐久良東雄歌集』(佐久良東雄・大久保要顕彰会編, 桜華社)

天皇(すめらぎに)に…→P 4

いのちだに…→P 20

君がため…→P 25

事しあらば…→P 81

わが君に…→P 173

○中等国文 1 (女) 昭 18.12.24

1. 富士の高嶺 (万葉集) [国文 1 - 1]

5. 戦国の女性 (常山紀談) * 岩波文庫『常山紀談上中下』異文

・ 緋をどしの武者

→巻 1 5 (1 話)「伊勢国阿濃津城軍の事」の内, 前半部 (末尾・注記略)

・ もとゆひ

→巻 23 (15 話)「奥平家の士の妻髪を切て節を守ること」

・ 手桶の粥

→巻 7 (1 話)「前田利家末森城後巻合戦の事」の内, 冒頭部 (末尾・注記略)

・ 義のために

→巻 14 (1 話)「細川忠興の北の方義死の事」(中略)

7. 五月の空 (十訓抄) * 岩波文庫『十訓抄』

・ 淀のわたり

→第 1 の 12 淀の渡の古歌

・ 弓張月

→第 10 の 56 の内, 「頼政の鶴」(「昔養由雲外射鴈の文」以降略)

9. 父の仇 (太平記, 吉野拾遺)

太平記 * 34 異文

・ 佐渡が島

→巻第 2 長崎新左衛門尉意見事付阿新殿事の内「阿新父資朝を尋ねて佐渡に下る」, 「阿新佐渡に到着本間入道, 父子の対面を許さず」, 「資朝斬らる, 阿新の仇を討ち, 山伏に助けらる」(一部略)

吉野拾遺 * 『群書類従 27 輯』

・ 恩と仇

→下の第2話 P 529-531

12. 山里 (太田垣蓮月) * 『校註国歌大系 20 卷 明治初期諸家集』所収「海女の刈藻」
 山里は…→P 165
 おり立ちて…→P 140
 宿かさぬ…→P 145
 かぶり火の…→不明
 はらはらと…→P 158
13. 親心 (雲祥雑誌) [国文1-10の内, 「石白の目」を欠く]
15. 旧都の月 (平家物語) * 32 異文
 →巻5「月見」(冒頭, 中, 末尾各所に略)

○中等国文2 (女) 昭19.8.20

1. 豊旗雲 (万葉集) [国文2-1, 15, 8, 1093, 4352]
 →15, 8, 1093, 4352, 1795, 4286
2. 大君のへに (太平記) * 34 [国文2-6, 一部] [国文3-7, 一部]
 ・松の下露 [国文2-6, 松の下露]
 ・院の庄 [国文2-6, 院の庄]
 ・熊野落ち [国文3-7, 柿の衣の一部, 若干の異文]
 →巻5大塔宮熊野落事「按察法眼好専, 宮を般若寺に攻む, 経箱に隠れ, 危難を遁れさせらる」
 (後略), 「熊野に向わる, 道行文, 切目の王子の示現, 十津川に御到着」(後略)
 ・吉野の花 [国文3-7, 緋緘の鎧の一部]
 →巻7吉野城軍事「大塔宮, 最後の御酒宴, 木寺相模の舞, 村上義光, 宮に代わって討死す」
 (中・後略)
 ・船上のみゆき [国文2-6, 船上のみゆき]
5. 一萬と箱王 (曾我物語) * 88
 ・雁がね→巻3「九月名月いでて, 一萬・箱王, 父の事嘆く事」(冒頭略)
 ・かたき→巻4「鎌倉殿, 箱根御参詣の事」(中略), 「箱王, 祐経にあひし事」(後略)
10. 和歌の四季 (佐々木信綱の文章, 近世の和歌18首を取り上げる)
 *この項だけ, 表示テキストが複数にわたるので例外的に次の記号を用いる。
 A. 『校註国歌大系 15 近代諸家集1』 B. 『校註国歌大系 16 近代諸家集2』
 C. 『校註国歌大系 17 近代諸家集3』 D. 『校註国歌大系 18 近代諸家集4』
 E. 『校註国歌大系 19 近代諸家集5』 F. 『校註国歌大系 20 明治初期諸家集』
 G. 『契沖全集 13』(岩波書店) H. 『勤王文庫 4』
 I. 『佐久良東雄歌集』
 皇神の…→(伊能魚彦) A「揖取魚彦家集」P 735, 初瀬のや…→(契沖) G「漫吟集類題」462
 番歌, 朝日かげ…→(佐久良東雄) I P 53, 行く人を…→(大隈農道) E「草徑集」P 826, つ
 ばくらめ…→(大隈言道) E「草徑集」P 826, うらうらと…→(加茂真淵) A「加茂翁家集」P
 503, たぐひなき…→(本居宣長), 出典不明, ここかしこ…→(木下幸文) D「亮々遺稿」P 413,
 夕立の…→(井上文雄), 出典不明, 賤が家の…→(井上文雄), 出典不明, 天の原…→(伊能魚
 彦) A「揖取魚彦家集」P 756, もののふの…→(石川依平) C「柳園詠草」P 804, ひとたびは
 …→(野村望東) H「姫島日記」P 424, 月ひとり…→(小沢蘆庵) C「六帖詠草」P 123, よそ

人は…→(井出曙覧) F「志濃夫廼舍歌集」P 35, うち日さす…→(加藤千蔭) B「うけらが花」
P 292, もののふの…→(伊能魚彦) 出典不明, めせめせと…→(太田垣蓮月) F「海女の刈藻」
P 166

11. 亡きあと

- ・母上へ *『志士書簡』(遠藤操, 厚生堂) 異文
→P 294-297
- ・わが子へ *有朋堂文庫『新撰書簡集全』異文
→43「原總右衛門の母より總右衛門へ」

13. 屋島(平家物語) * 33 異文 [国文3-4, 一部]

- ・逆鱸 [国文3-4, 逆櫓, 中略]
- ・継信の最期 [国文3-4, 継信の最期]
- ・那須餘一 [国文3-4, 屋島, 後半略]
- ・鍛引き
→巻11「弓流し」(前半, 末尾略)

○中等国文3(女) 昭19.12.25

1. 鞆の音(万葉集) [国文3-1, 3, 4] [国文4-1, 76]

→76, 3, 4

2. 大国主神(古事記) [国文4-2]

4. 浮島が原(義経記) [国文3-5, 末尾略]

5. 小袖曾我 *『日本古典全集 謡曲集中』

→小袖曾我

8. 涼風(芭蕉, 一茶の俳文)

- ・十八樓記 * 46

→「俳文」の29 十八樓ノ記

- ・子宝 * 58

→「おらが春」P 144-145

10. 忠度(平家物語) * 33 異文 [国文2-3, 一部]

- ・都落 [国文2-3, 故郷の花]

- ・最期

→巻9 忠度最期

11. 磯もとゞろに(源実朝) [国文3-6, 697, 348, 680, 717] [国文6-7, 680, 697, 717]

→1, 227, 697, 348, 680, 717

12. 士風(駿台雑話) *『駿台雑話』(岩波文庫) [国文2-8, 一部]

- ・直諫

→巻3 禮集 杉田壺岐(冒頭略)

- ・余吾の海 [国文2-8, 鎧の着そめ, 若干の異文]

13. 左の手(富士谷御杖) *『日本隨筆大成 I 期15』所収「北辺隨筆」

→第2(29話)「ものゝ上手」

○中等国文4 (女) 昭19.9.30

1. 大宮の(万葉集) [国文4-1, 239, 3947, 1422]
→ 239, 256, 4084, 1597, 3947, 2329, 1828, 1422
2. 人臣の道(神皇正統記) * 87 異文 [国文3-8, 一部] [国文4-3]
・文武二なし
→ 後醍醐天皇の内, P 175-176 [国文3-8の前半]
・人臣の道 [国文4-3]
3. 草薙の太刀(古事記) [国文3-2]
4. 高名の木のぼり(徒然草) [国文4-10]
5. 月天心(蕪村) * 58 [国文4-5, 618, 940, 316, 319, 655]
→ 618, 932, 940, 842, 100, 138, 「春風馬埭曲」の第2句, 521, 494, 316, 343, 319, 677, 655
8. 縣居大人(玉勝間) * 『日本思想大系40 本居宣長』
・古へ学びのおや
→ 1巻の4 「あがたみのうしは古学のおやなる事」
・物学びの思ひ出
→ 2巻の43 「おのが物まなびの有しやう」
・師のさとし
→ 2巻の44 「あがたみのうしの御さたし言」
11. 巴の勇戦(源平盛衰記) * 有朋堂文庫『源平盛衰記下』
→ 第35巻「巴関東下向事」(後略)

○中等国文5 (女) 昭20.1.28

1. 若菜(古今和歌集) [国文5-1]
2. やまとうた(紀貫行) [国文5-2]
3. 春は曙(枕草子) [国文5-3, 1, 204, 226]
→ 1, 二→50, 三→155(略), 四→204, 五→226, 六→278
5. 恩賜の御衣(大鏡) [国文5-5]
6. あづまち(更級日記ほか)
・一 更級日記 * 21
→ 「かどで」(冒頭), 「竹芝寺」(末尾), 「足柄山」
・一 十六夜日記 * 『十六夜日記・夜の鶴全訳注』(講談社学術文庫)
→ 「一, 水くきの後」, 「二, やもと歌の道」, 「三, 細川の流れ」, 「四, 東の亀の鏡」, 「五, 冬立つ空」, 「六, 荒れまさる庭」(末尾略), 「七, 藻塩草」, 「八, 手習」, 「九, たびごろも」
8. 天の香具山(新古今和歌集) [国文5-9, 2, 35, 26, 1882, 362, 472, 389, 158, 953, 671]
→ 2, 35, 26, 76, 268, 1882, 362, 472, 389, 158, 953, 671
9. 月の前(上田秋成) [国文5-7]
11. 敷島の道(増鏡) [国文5-10]
12. 吉野の奥(後醍醐天皇他) [国文5-11]
14. 先達(徒然草) [国文5-15, 52, 150, 171, 188, 167, 215]
→ 52, 二→150, 三→171, 四→188, 五→167, 六→234, 七→56, 八→215
15. 説話三則(古今著聞集他) [国文5-12]

16. 鞍猿（狂言）[国文5-13]
17. 奥の細道（奥の細道）[国文5-16]

○国文6（女） 昭20.1.29

1. いでまし（古事記）[国文6-1]
2. 青垣山（万葉集）[国文6-2の38, 39, 1515, 147, 277, 3252, 319, 929, 930, 1046, 4491, 4297, 4394, 4398]
→38, 39, 1515, 147, 7, 22, 268, 277, 3252, 319, 929, 930, 1046, 3952, 4491, 2687, 4297, 4394, 4398
4. 正月一日（枕草子） * 『日本古典文学全集 枕草子』
→3（冒頭）, 147, 204, 249, 206, 207, 208
5. 賀宴（源氏物語） * 14
・紅葉賀
→紅葉賀の巻1「紅葉賀の試楽と秋風楽」（中・末尾略）
・花宴
→花宴の巻1「花宴の舞楽と探韻」（中略）
6. 白良の濱（催馬楽、梁塵秘抄）[国文6-5]
7. 大原御幸（平家物語） * 33
→灌頂巻「大原御幸」（中略）, 「六道之沙汰」の冒頭（中略）, 「女院死去」の冒頭
8. 法語抄（歎異抄他）[国文6-9]
10. 撰待（謡曲） * 『日本古典全書 謡曲集下』, 異文
→撰待
11. 葉隠抄（山本常朝）[国文6-12]
12. 奥の細道（奥の細道）[国文6-14]
13. 直毘霊（本居宣長）[国文6-16]
15. 尊きこの身（平賀元義ほか）[国文6-17]
16. 松陰と家庭 * 『吉田松陰全集7, 8巻』大和書房, [国文4-9, 一部]
母より
→8巻, 462, 安政6年正月25日付け書簡 [国文4-9, 母瀧より]
妹へ
→7巻, 138, 安政元年12月3日付け書簡3通全て [国文4-9, 妹千代に与ふ, 一部]

○中等国語1（前）昭21.3.17（後）昭21.8.6

- (前) 1. 富士の高嶺（万葉集）[国文1-1]
- (前) 2. 親心（雲萍雑誌）[国文1-10]
- (後) 6. 一門の花（平家物語）[国文2-3]
- (後) 8. すすきの穂（良寛他）[国文1-11, 79, 105, 44, 168, 169, 172, 173] [国文2-4, 平賀元義を除く]
- (後) 10. 創始者の苦心（蘭学事始）[国文2-10]

○中等国語2 (前) 昭21.3.30 (後) 昭21.8.6

- (前) 1. 豊の年 (万葉集) [国文4-1, 929, 3947, 1422] [国文女4-1, 256, 4084, 1597, 3947, 2329, 1828, 1422]
→ 256, 1092, 929, 4084, 1597, 3947, 2329, 1828, 1422
(前) 2. 大国主神 (古事記) [国文4-2]
(前) 5. 高名の木のぼり (徒然草) [国文4-10]
(前) 6. 月天心 (与謝蕪村) [国文4-5]
(後) 10. 学びの道 (本居宣長) 『日本思想大系40 本居宣長』
→ 「玉勝間」巻1-39 「あらたなる説を出す事」, 巻2-46 「師の説になづまざる事」(末尾略), 47 「わがをしへ子にいましめおくやう」

○中等国語3 (前) 昭21.3.30 (後) 昭21.8.6

- (前) 1. 若菜 (古今集) [国文5-1]
(前) 2. やまとうた (古今集仮名序) [国文5-2]
(前) 3. 春は曙 (枕草子) [国文5-3, ただし国文は各文に「一〜八」の番号を付す]
(前) 4. 先達 (徒然草) [国文5-15]
(前) 5. 奥の細道 (奥の細道) [国文5-16]
(後) 1. 天の香具山 (新古今集) [国文5-9, 1882 なし]
→ 2, 35, 26, 267, 201, 362, 472, 389, 158, 953, 671
(後) 2. まづまち (更級日記他) [国文女5-6]
(後) 6. 敷島の道 (増鏡) [国文5-10]
(後) 7. 恩賜の御衣 (大鏡) [国文5-5]

○国語4 昭21.3.11

1. 倭建命 (古事記) * 1, [国文6-1, 神武天皇なし]
→ 中巻景光天皇の4 「小碓命の東伐」(後半), 5 「倭建命の薨去」(末尾略)
2. 白珠 (万葉集) [国文6-2, 1515, 64, 930, 378] [国文女6-2, 1515, 7, 277, 930]
→ 1515, 7, 254, 277, 64, 335, 930, 932, 378, 986, 987, 1571, 1572, 1573, 1023
3. 賀宴 (源氏物語) [国文女6-5]
4. 源氏物語論 (本居宣長) * 94 注 本書「なほおほむね」に中略あり
→ 源氏物語玉の小櫛「すべての物語書の事」(末略), 「なほおほむね」(P 104-108), 「なほおほむね」(P 112), 「くさぐさのころばへ」
5. 白良の濱 (歌謡, 催馬楽他) [国文6-5]
7. 年来稽古 (風姿花伝) [国語女4-7]

○中等国語1女 (前) 昭21.3.17

- (前) 1. 富士の高嶺 (万葉集) [国文1-1]
(前) 2. 親心 (雲苜雑誌) [国文女1-13]

○中等国語2女 (前) 昭21.3.30

- (前) 1. 豊の年 (万葉集) [中等国語2-前1, 256, 4084, 1597, 3947, 2329, 1828, 1422]

→ 256, 273, 4084, 1597, 3947, 2329, 1828, 1422

(前) 4. 涼風 (芭蕉, 一茶の俳文) [国文女 3-8]

(前) 5. 左の手 (富士谷御杖) [国文女 3-13]

(前) 6. 高名の木のぼり (徒然草) [国文 4-10]

○中等国語 3 女 (前) 昭 21. 3. 30 注) 3, 5 以外, 全て [国語 3 前] に同じ

(前) 1. 若菜 (古今集) [国文 5-1]

(前) 2. やまとうた (古今集仮名序) [国文 5-2]

(前) 3. 春は曙 (枕草子) [国文女 5-3]

(前) 5. 先達 (徒然草) [国文女 5-14]

(前) 6. 奥の細道 (奥の細道) [国文 5-16]

○国語 4 女 昭 21. 3. 11 *全て [国語 4] に同じ

1. 倭建命 (古事記) [国文 6-1 の神武天皇なし] [国語 4-1]

2. 白珠 (万葉集) [国語 4-2]

3. 賀宴 (源氏物語) [国文女 6-5]

4. 源氏物語論 (本居宣長) [国語 4-4]

5. 白良の濱 (歌謡, 催馬楽他) [国文 6-5]

7. 年来稽古 (風姿花伝) [国語 4-7]

○中等国語 1 (1)昭 22. 2. 10, (2)昭 22. 9. 8, (3)昭 23. 1. 9

(1)-10・末ひろがり (狂言) * 42

→末広がり

(2)-4・創始者の苦心 (蘭学事始) [国文 2-10] 漢字新字体に

○中等国語 2 (1)昭 22. 3. 7, (2)昭 22. 9. 8, (3)昭 22. 12. 27

(1)-6・一門の花 (平家物語) [国文 2-3]

(1)-7・舞へ… かたつむり (梁塵秘抄) * 73 [国文 6-5, 433, 359]

→ 408, 433, 434, 359

(2)-5・万葉秀歌 (斎藤茂吉, 万葉秀歌) * 融合教材

→ 28, 256, 924, 43, 340

(3)-4・鬼にこぶ取らるること (宇治拾遺物語) * 27

→ 巻 1-3 「鬼窟被取事」

(3)-7・ひさかたの (古今集) [国文 5-1, 18, 42, 135, 165, 304, 327, 970]

→ 18, 42, 84, 135, 165, 304, 315, 327, 970

○中等国語 3 (1)昭 22. 3. 18, (2)昭 22. 9. 8, (3)昭 22. 12. 12

(1)-1・天の香具山 (新古今集) [国文 5-9 の 1882 なし] [国語 3 後-1]

(1)-9・長歌 (万葉集, 良寛) * 『日本古典全書 良寛歌集』

・万葉集→ 1744, 1745

・良寛→ 1187 (反歌 2 首含む)

(1)-10・羽衣(謡曲) * 41

→羽衣

(2)-4・芭蕉の名句(穎原退蔵「芭蕉の名句」芭蕉の句8首) * 45

→(穎原文中→192, 329, 567, 759), 108, 179, 225, 382, 445, 430, 685, 737

(3)-5・随筆二題(枕草子, 徒然草)

・枕草子 * 『日本古典文学全集 枕草子』

→1, 44

・徒然草 * 30 [国文4-10, 92, 109] [国文5-15, 167]

→92, 109, 167, 234

○高等国語1 上昭22.3.16, 下昭22.10.25

古典教材無し

○高等国語2 上昭22.3.31, 下昭22.9.26

上-2・枕草子抄(春曙抄) [国文5-3, 147, 116, 204, 133, 208, 226, 25]

[国文女5-3の50, 278, 155, 204, 226]

→147, 116, 204, 133, 208, 50, 226, 278, 25, 155

上-6・万葉集抄(万葉集) * ()は既出

→(1515), (7), (8), 48, 251, (254), (256), 131, 132, 133, 107, 108, 141, 142, (1422),
(64), (320), 924, (929), (930), 1428, (986), (987), 340, 804, 805, 806, 803, 1541,
1542, 4163, 4164, 4314, 4315, (1571), (1572), (1573), (1023), 1285, 1299, 3404, 3417,
3478, 4346, 4351, 4370

下-6・源氏物語 * 14

・小はぎがもと→桐壺 4「靱負の命婦の見舞と復命」(末尾略), 5「祖母死, 源氏書始め, 観
相と臣籍降下火氣」の冒頭部(中略)

○高等国語3 上昭23.4.6, 下昭23.8.17

上-1・奥の細道(奥の細道) [国文5-16]

上-6・年来稽古(風姿花伝) [国語4-7]

下-1・自然と人生(芭蕉, 三冊子, 去来抄)

・風雅の誠 * 46, 66 数字は本書の番号, またはページ数

→書簡, 39「北枝宛書簡元禄三年四月二十四日」, 俳文, 62「去六離別の詞」

三冊子「赤雙子」の冒頭P 397, 同左P 398-399, 去来抄「先師評」P 313-314,

同左P 306-307

下-4・つきあひは格別(西鶴諸国ばなし, 日本永代蔵)

・大晦日は合わぬ算用 * 『日本古典文学全集 井原西鶴集2』

→西鶴諸国ばなし巻1-3

・買ひ置きは心やすい時 * 48

→日本永代蔵巻6-3

下-7・八雲たつ(古事記, 播磨風土記, 日本書紀) * 1, 2, 68 [国文3-2, 一部] [国文

6-1, 一部]

→古事記上巻「天照大神と須佐之男命」の9「須佐之男命の大蛇退治」の一部P 89, [国文3 - 2, 一部]

古事記中巻「景行天皇」の4「小碓命の東伐」の一部P 215-217 } [国文6 - 1, 一部]

古事記中巻「景行天皇」の5「倭建命の薨去」の一部P 221-223 }

播磨国風土記「賀毛郡」の一部P 345

古事記下巻「仁徳天皇」の6「枯野という船」の冒頭

日本書紀巻22「豊御食炊屋姫天皇」(推古21年12月庚午朔)の前半P 198.

日本書紀巻25「天萬豊日天皇」(大化5年3月)の末尾P 310

(本学講師 函館分校)